



Jミルクの酪農乳業産業基盤強化特別対策事業では、酪農の担い手確保につながる取り組みを支援しています。今回は長年酪農教育ファーム活動に取り組み、酪農に興味のある学生の受け入れも行っている千葉県(株)須藤牧場をご紹介します。

## 後継者：須藤 健太 (すどう けんた) さん

須藤健太さんは(株)須藤牧場の後継者で4代目(常務)。裕紀さん(父)が代表を務め、陽子さん(母)が専務です。牧場にはアイスクリームなどの乳製品を販売するショップを併設しており、イオンにも出店しています。牧場とお店をあわせて、正社員5名、パート4名を雇用。搾乳牛は約80頭、うち2割ほどはジャージー牛です。6haほど自給飼料(デントコーンとソルガム)を作付けしています。

「私は次男なのですが、幼いころから牧場を継ぎたいと考えていました。両親が楽しそうに酪農を営んでいましたし、やりがいのある仕事だと感じていました。兄は将来の夢がありましたから、私が継がないと牧場がなくなってしまうと思い、それは嫌だと思ったのがきっかけです。今、仕事を始めて

8年目になりますが、酪農をやめたいと思ったことはありません。酪農や牛は奥が深く、はっきりと正解の出ないところが魅力です。

これからは、牧場全体の技術の平準化と“これからも牧場をつないでいくこと”が一層大切だと考えています。幸いなことに、両親をはじめ頼りがいのあるスタッフに恵まれていますので、今後は経営に専念していくつもりです。」と力強く語ってくれました。



左から須藤陽子さん、裕紀さん、健太さん、原正則さん



陽子さんは令和3年度農林水産祭の日本農林漁業振興会会長賞(女性の活躍部門)を受賞されました

## 牧場長：原 正則 (はら まさのり) さん

「須藤牧場では子どもたちを受け入れる酪農教育ファーム活動に加え、酪農に興味のある大学生などの受け入れも行っています。また、作業の平準化を目指して農場HACCP認証に向けて取り組んでいますが、実習生などの第三者の目線を通じて、普段の飼養管理のレベルアップを図るきっかけになることを実感しています。」と牧場長の原正則さん。

「実習生の受け入れに際しては、部屋の掃除はもちろんのこと、シャワールームの整備や家電の準備など、生活基盤を整えることが必要になってきます。特に今年はコロナ禍ということで、受け入れ準備は念入りに行いました。何かと費用はかかりますので、Jミルクの助成事業はありがたいです。酪農は産業としての認知度がまだまだ低いと思いますので、例えば経験のある酪農家のアドバイスのもと、多くの酪農家が受け入れを出来る仕組みの構築や、優良事例の紹介などを今後期待します。」と話してくれました。



千葉県館山市にある(株)須藤牧場



育成牛を放牧中

## 中国四国酪農大学校2年生：松下 舜 (まつした しゅん) さん

私は非農家出身ですが、動物に興味を持ち、農業高校に進みました。そこで牛に出会い可愛さにひかれたのが、酪農に興味を持ったきっかけです。須藤牧場はSNSで知り、酪農教育ファームや6次産業化をはじめ色々なイベントを実施しているところに関心を持ち、受け入れをお願いしました。コロナ禍で活動の制約はありましたが、日々充実しており、振り返ってもあっという間でした。

卒業後は、地元長崎県の牧場に就職しようと考えています。酪農を通じて命の大切さを伝え、酪農の本質を多くの方に知ってほしいと思っています。

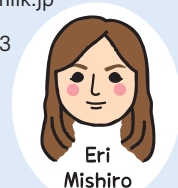


実習風景。左から原さん、松下さん、須藤健太さん

2021年度酪農乳業産業基盤強化特別対策事業は、現在追加募集中！事業の概要や申請要件などはHPに掲載しています。ご不明な点などありましたら、お気軽にお問合せください。生産流通グループ 主任 三代 絵理

e-mishiro@j-milk.jp

TEL 03-5577-7493



Eri Mishiro

Jミルク 生産基盤

検索